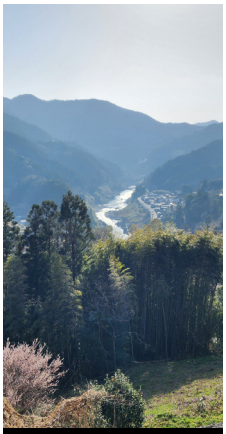
（公社）兵庫県建築士会　姫路支部　会報

姫路支部だより 5

2023 May No.96

薬師堂全景

鉞と鑿による仕上げの高欄


参道より吉野川上流を望む

国宝探訪 NO.41 豊楽寺薬師堂　～四国最古の木造建築～　平安時代（1151年）　高知県長岡郡

高知県に入り吉野川の上流に位置する最寄駅から急な山道を登り40分ほどすると、目前に県内唯一の国宝建造物豊楽寺薬師堂が現れます。四国唯一の平安時代の建築様式をもつ最古の木造建築です。桁行、梁間共に5間で入母屋造り柿葺（こけら）きの屋根は、全体的に安定した形を見せています。正面中央3間は板唐戸、両脇の一間には連子窓があり、壁は横羽目板壁とし、長押で柱を固めているなど、平安建築の特徴を色濃く残しています。柱は全て丸柱で上に舟肘木を置き、軒は低く一軒で疎垂木（まばらだるき）となっています。屋根の妻飾りは豕叉首（いのこさす）と懸魚（げぎょ）のみであるなど、建物の構造形式は簡素で、木割は大きく軒の出は深く、屋根の勾配は緩やかで反りは美しく、平安時代の優雅な洗練された形が見られます。また、鉋（かんな）のない時代の建物であるため、鉞（まさかり）と鑿（のみ）により仕上げられたもので、その姿が随所にうかがえる非常に珍しい建物で、静寂の中今なお遥か昔の歴史を現代に生きる私たちに伝えています。

今回で、国宝探訪は最終回となります。「姫路城の見どころ」から始まったこの取材は、県内の取材を終えた後、鳥取県を皮切りに島根県→山口県→広島県→岡山県→香川県→高知県と巡ってきました。

この取材を通じて2つの大きな気づきがありました。

1つは建物の持つ本来の空気感。一人も写っていない建築物を撮影するために現地で夜が明けるのを車内で待ちながら取材を続ける中で、静寂が漂う国宝を目前にすると、「凛」とした神秘的な空気感を享受することができ、建物独自の力を感じ取ることができました。2つ目は、観光地ではなくひっそりと佇む場所に立地する国宝に対峙したことで、このような建造物こそその魅力を国民の皆さんに伝え、先達たちが受け継いできた日本建築の素晴らしさを未来へと伝承する役目を担っているのが私たち「建築士」であると、その使命を改めて認識した旅でした。

（写真・文：西嶋 宣久）

4月の活動報告

4.11(火)　6役会（姫路建設会館）

4.20(木)　監事会・理事会（姫路建設会館）

4.27(木)　建築相談（姫路市役所）

5月の活動予定

5.13(土)　通常総会・講演会（姫路建設会館）
懇親会（北京閣）

5.25(木)　建築相談（姫路市役所）
構造学習会（オンライン）

退任御挨拶

平素は支部活動にご協力いただき誠に有難うございます。この度、私来る5月13日開催の支部総会におきまして、4期8年の任期を終え支部長を退任する運びとなりました。

平成27年5月2日に就任して以来、多くの会員の皆様に支えられ無事この一時が迎えられましたことを衷心より感謝申し上げます。この間には支部創立60周年、兵庫県建築士会創立70周年の記念事業、そしてコロナ禍での対応など様々な活動に携わることとなりました。

また、就任直後から8年間毎月発行した私の編集による支部だよりは、この96号をもって終了となります。今後は新体制による発行となりますが、引き続き今までと変わらず支部のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

支部長としての8年、そして理事としての30年、誠にお世話になり有難うございました。

姫路支部長　西嶋 宣久